

○2007新春の集い

毎年恒例の新春の集いを、2007 年は、国政での活動 10 周年を記念し、各地区合同で開催させていただきます。この節目に多くの方にお集まりいただき、新春のお祝いとともに、これからの中川を盛り立てて下さい。

1月20日(土) 11時～13時 四日市都ホテル
特別ゲスト：政界の水戸黄門 渡部恒三衆議院議員
<問合せ> 059-373-3933 鈴鹿事務所まで。

○国会の区切り。来年の挑戦。

臨時国会が終わりました。

小泉内閣から安倍内閣に代わり、物事が変わるのかと思いきや、矛盾はさらに加速され広がっています。

地方分権や教育などの分野では、分権や民営化は名ばかりで、実質は国家の上からの統制をさらに強めていること。一方、経済や社会分野では、市場開放と無秩序な競争原理の強化を進めたこと。その結果、あらゆる分野で「格差」が増幅され、日本社会の暖かさや中流意識の中での安定感が崩れつつある「すさんだ社会」が広がることに、危機感を持っています。

安倍政権が今国会中の通過にこだわった法案は、教育基本法、防衛庁の省昇格法、アフガニスタン・テロ対策への自衛隊派遣延長、共謀罪、そして憲法改正のための国民投票法案などです。復党問題で自民党内の混乱が出てきたり、道路特定財源の一般財源化で党内の抵抗勢力にまるきり押さえ込まれた結果、法案の採決が鈍りました。共謀罪関連法案や憲法の国民投票法案などは、採決に至らず、途中で諦めました。

一方で、法案の審議を通じて、政府の根本姿勢が問われる問題が出てきました。タウンミーティングの「やらせ」。大学進学に目を奪われ、本来の教育をないがしろにした「必修科目の未履修」。防衛庁の官製談合や豚肉などの輸入関税制度の不備が業界の偽装価額申告を誘発させ政治家も巻き込んだスキャンダルに発展しそうなこと。さらに、保守王国と言われる県レベルでの知事を巻き込んだ官製談合事件、等々。従来の自民党政府の基本体質は、やはり変わっていないことがハッキリしました。

来年の通常国会に向けて、戦いの準備を始めています。年金・医療・福祉は、税を使って将来の安心を確実にすること。低所得者の増大、雇用の不安定化など社会の底辺が広がっていく格差。田舎ではことさら厳しさを増す自治体の財政崩壊と都市への集中という格差などをくい止め、競争原理の公正なルール作りと安心の基盤へ、政治の方向を切り替える挑戦をします。同時に、腐りきった自民党体質を徹底的に暴いて、掃除することも大切だと思っています。7月は、参議院の選挙。ここで、勝負です。

○議員特権は、どこまで許されるのか。

新築された赤坂議員宿舎の問題をどのように整理するかで、担当の議院運営委員会が頭を抱えています。

衆議院では、今回建て替えた赤坂以外に、高輪、青山、九段の4ヶ所に宿舎があります。各宿舎の老朽化と道路計画による立ち退きで、青山、高輪も取り壊し、その分も含めて赤坂を300戸に増やして建て直しました。建築費は120億円。家賃の設定は一般の国家公務員の官舎家賃の基準プラス5%。赤坂は80平米で9万5千円ほどです。ニュース番組やワイドショーでたびたび放送され、「展望ロビーやジムなど贅沢すぎる。」「9万5千円の家賃は安すぎる。」「もともと80平米も要らない」等々、注目を集めています。

こうした議論に議員の多くは嫌気がさして、新宿舎には移りたくないと言い出す始末です。地元でも「中川さん、どうするの?」などと、時々心配してくれます。私はたまたま建て替え対象になっていない九段に入っているから、そのままですが、この話に巻き込まれた議員達はかわいそうです。

私たち議員は、長い歴史の中で、この宿舎以外にも様々な特権を認められてきました。年金、退職金、乗り物のフリーパス、文書交通費、政党助成金、政策公設秘書、議員会館事務所、タクシーがわりの公用車、など、沢山あります。税金の無駄遣いを戒める私たちの立場から言えば、「隗より始めよ。」この際、国民に「ここまでなら仕方ないだろう。」と認めてもらえる議員特権は、いったいどこまでなのか、党でまとめる事になりました。私が座長と言う事なので、皆さん、どうぞ多くのご意見をお寄せ下さい。